

令和6年度第1回つくばみらい市環境保全審議会 会議録

- 1 開催日時 令和6年11月26日(火)  
午後3時00分から
- 2 開催場所 つくばみらい市役所伊奈庁舎 3階 大会議室
- 3 出席委員 天野 一男 委員 仲田 弘美 委員 深谷 慶仁 委員  
松崎 清 委員 元田 治 委員 山野井 浩 委員  
石村 章子 委員
- 4 欠席委員 宮本 和代 委員
- 5 事務局 生活環境課  
課長 飯村 昌之 課長補佐 高津 知明  
主査 羽生 順一 主事 高野 伸章
- 6 傍聴人 0名

7 議事内容

<p>開会</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・あいさつ</li> <li>・議事</li> <li>・議案第1号</li> </ul>	<p>午後3時00分開会</p> <p>会長あいさつ</p> <p>会長が議事を進行する。</p> <p>会長 議案第1号 会長、副会長の選任について</p> <p>事務局 天野一男委員が会長に、仲田弘美委員が副会長となった。</p> <p>会長 説明が終わりましたので内容について意見、質問はございますか。</p> <p>委員 アライグマの駆除目標頭数50頭に対して、現状169頭ということで、かなり数字が隔離しているため、目標頭数を見直したらどうか。</p> <p>事務局 駆除頭数の目標については、実施計画として5年の期間設定で数値を定めている。そのため、目標達成した</p>
--	---

かどうかだけにとらわれず、どのような施策を行うかに目を向けていけたらと考えている。

委員 アライグマの檻の数はどのくらいあるのか。

事務局 檻の数は令和2年度には9個、令和3年度には17個、令和4年度には19個、令和5年度には30個と、年々増えている。そのため、個体数自体も増えていると思うが、檻の数の増加も、捕獲頭数の増加に影響を与えている可能性も考えられる。

委員 アライグマは駆除対象で、ハクビシンは外来種でないため駆除対象ではないということだが、ハクビシンも農作物や人家に被害をもたらす害獣であると考え。県の方針としてはどう考えているのか。

委員（県） そういったご意見があるということは承知した。

委員 捕獲檻にハクビシンが入ってしまった場合は、市民が逃がすのか、それとも市の職員が逃がすのか。

事務局 ハクビシンが捕獲できないことは、貸し出しの際に最初に伝えているため、ハクビシンが檻に入ってしまった場合は、市民の方が逃がすように伝えている。

委員 アライグマ以外の動物が檻に入ってしまった件数を市は把握しているのか。

事務局 貸し出しの際に、アライグマ以外の動物が檻に入ってしまった場合は、市民の方が逃がすように伝えているため、件数は把握していない。

委員 アライグマに限らず、ハクビシンなどでも被害に困っている方がいるので、つくばみらい市は件数を把握してもいいのではないかと思う。

委員 キョンについては、市としてはどのような対応をとっているのか。

委員（県） キョンについては情報提供を募っている。現時点では定着が確認されているような話は聞いていない。

委員 遊休農地について、目標値と実績値が乖離しているが、実態はどうなっているのか。

事務局 農業従事者の高齢化等が考えられる一方で、所有者と担い手へのマッチング等も行っている。また、多面的機能支払い交付金という補助金制度もあり、解消に向けた取り組みを支援している。また米コンテストの開催もしており、PR活動は行っている。

委員 市としては農業の位置づけを考える必要があるのではないかと。

事務局 市内には井関農機とクボタがあり、協力・連携しながら、お米の普及活動に取り組んでいる。一方、遊休農地の解消には基盤整備から改善する必要がある。

委員 つくばみらい市内には農業の株式会社や合同会社はあるのか。

事務局 農事組合法人がある。

委員 井関農機やクボタと連携をとることで、遊休農地解消は可能か。

事務局 遊休農地の解消には抜本的な技術開発も必要ではあるが、2社と連携することで、より良い農業にすることは可能である。

委員 市として、行政として、農業の担い手を増やす方法は考えているのか。

事務局 市として今後も農業を守っていくために、先ほど話が挙げた所有者と担い手のマッチング、多面的機能支払い交付金の活用、井関農機やクボタとの連携で、担い手を増やしていきたい。

委員 若者が将来、他へ流出していかないような政策を考える必要があるのではないかと。

事務局 福岡工業団地の整備を行い企業の誘致を行っており、雇用と市内への居住の促進に取り組んでいる。

<p>・その他</p> <p>・閉会</p>	<p>委員 農協とも連携をとる必要があると思う。また、耕作放棄地が増えると草が伸び不法投棄も増える。</p> <p>事務局 農地の場合は、農業委員会や農業委員の方の協力を得ながら、農地の草の除草依頼などの対応を行っている。</p> <p>委員 温室効果ガスの排出量目標が達成できなかったとのことだが、達成できなかった理由はあるか。</p> <p>事務局 温室効果ガスの排出量目標は国や県の目標に準じた目標値となっている。温室効果ガスのほとんどが二酸化炭素であり、その二酸化炭素の85%以上は電気使用が原因となっている。今後は公共施設に発電設備を導入に向けて検討を進めている。また、一般住宅に対しても市では太陽光発電設備と接続する蓄電池の補助金制度もあることから、周知に取り組んでいる。</p> <p>委員 木を植えることで、二酸化炭素を吸収する。また、街の美化にもつながるので植樹をすることで、緑が増えたらいいなと思っている。流山おおたかの森は、東京から一番近くて緑の多い町にするという、市の考えがある。つくばみらい市も、木に関する目標を掲げてほしい。</p> <p>委員 ムクドリの大量発生については、市としてはどのような対策を考えているか。</p> <p>事務局 市として被害の把握はしていないことから、現時点で対策は必要ないと考えている。</p>
------------------------	--